

会長挨拶 噴火から満12年の年頭に 節目の年 一層の努力を



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年中は、皆さまに温かいご支援をいただいたことに深く感謝申し上げます。三宅島は今年噴火から満12年、村長、村議の改選が行われる節目の年と認識し、島の復興に貢献できるよう、より一層の努力をしてまいります。

三宅島の噴火災害は、2000年6月から始まり満12年、全島避難指示の解除から満6年を迎えます。

この間ボランティアの皆さん、マスコミ関係者の皆さん、各地の住民の皆さん、東京都、国、各地の自治体の行政機関の皆さん、火山・地震・医療関係者の皆さん等など言葉に言い表せないほどのご支援を忘れることはできません。

今年も頑張ります。

緊張感持つて代表選出を

三宅島は、名実ともに2012年は節目の年となります。

三宅村は、今年度から今後10カ年長期計画に取り組み方向を示し島民の意見要望を聞くために、住民懇談会を開きま



発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101 東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 第26回世話人会開催
1月7日(土) 18時30分～
場所：巣鴨ルノール会議室
- 新春のつどい
2月18日(土) 18時30分～
場所：ビストロおきみくら
☎ 03(5715) 3688
品川区南品川3-5-3
青横ビル3階・京浜急行青物横丁駅下車近く
会費：一人5,000円
皆さまのご参加をお待ちしております。
- ご寄付のお願い
郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
- 【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿25-6
電話：03(3963)5678
FAX：03(3963)5697
担当：大石・加藤

2月には、村長・村議員改選も迎えます。これまでの村政は、東京都と国の社会的基盤整備の復興事業に多大な支援を受けてきました。この復旧・公共事業をこなすのは、行政経験者であれば国や都との折衝や執行は様々な課題を残しつつも仕分け可能であったかも知れません。

しかしこれからは、従来の行政の枠を超えて島民と共に歩む「政治家」が求められるようになるのです。三宅島再生のための新たな挑戦・ビジョンを示す能力と行動が必要となります。

私たちは、緊張感を持って村の代表を選ぶことからこの年を始めたものです。

ふるさとネット事務局長 大石陽子 今だからこそ必要な支援を



新年あけましておめでとうございます。昨年は島民、協力者の皆さまのご協力のもと、東北大震災の支援もすることができました。また、訪問活動やふれあいコールで多くの方のお話を伺い、噴火から11年たった今だからこそ、本当に必要な支援をしなければならないと強く感じました。心と心の繋がりを大切に、微力ではありますが、皆さまのお力になれるよう、努力してまいります。

DTPA会長 相澤春歌 今年もできる限りの協力を



新年あけましておめでとうございます。DTPAがこの「三宅島新報」を担当させていただいて7年目を迎えました。長期に渡りこのような活動を続けて来られたのは、ふるさとネットの皆さま、そして一重にこの新聞の読者である島民の皆さまのおかげだと感謝しております。今年も、微力ではありますが、紙面編集に限らず、様々な面でのお力になれるよう努力してまいります。

状況さらに厳しく

「ふるさとネット」が、昨年10月下旬から12月上旬にかけて、在京三宅島住民と在島高濃度地区住民、合計155世帯を対象に実施したアンケート。在京30世帯と高濃度地区20世帯（在島12世帯・在京8世帯）の方たちからご回答をいただいた結果を、大妻女子大学人間関係学部教授の干川剛史先生にまとめていただいたところ、これらの方の生活が苦しい状況で、今後も支援が必要になってきた。

未帰島民の現状

健康 お金の問題深刻化

5割が「生活苦しく」

在京の方たち30世帯から寄せられた回答の概要です。アンケートの内容は、年齢・性別・家族・職業・居住地および現在の生活状況・現在、困っていること。

4割弱が夫婦で暮らしています。また、7割が無職です。避難前に阿古の居住していた回答者が3割、神着が2割強です。現在、9割が東京都内に居住しています。現在の収入は、7割弱が年金で、1割が生活保護を受けています。5割の回答者が、1年前に比べて、「生計が苦しくなっ

た」と答えています。また、6割弱が、預貯金が「全くなくなった」または「減った」と答えています。今後の生計の見通しは、「今より苦しくなりそうだ」が5割弱です。現在、困っていることを聞いた質問には、回答者の4割強が、「健康問題」、また、3割強が、「三宅島内の住宅の修繕費がかかる」や「三宅島に行くのにお金がかかる」と答えています。

「帰島したい」が2割

帰島についての考えに関しては、5割強の回答者が、「帰島しない」意向です。「帰島しない理由」としては、「車の免許を返納したので、身動きがとれない」、「だんだん高

齢になり、島での生活が不安になってきた」、「病院に行く回数が多いため」、「家を処分した」等です。

その一方で、「いずれは帰島したい」が2割強で、帰島に必要な条件としては、そのうちの7割強が「十分な医療や福祉サービスが島内で受けられれば」、また、その他に「三宅島に人工透析器があれば」もあげられています。

回答者の4割が、「三宅島への渡航費用の補助」、また、3割弱が、「三宅島内の住宅の補修や再建への補助」を行政に望むこととしてあげており、その他の項目についても、金銭面での支援を求めています。

透析器問題もネックに

健康問題としては、「年齢的に足腰の痛み、夫の病氣、帰島しても大変」、「歩行困難でつらいのです。足が悪く情けない」、「一日も早い人工透析器を考えてほしい。皆さん、島に帰島したく、毎日々々大変な思いで住みなれない東京で苦しんでおります」。

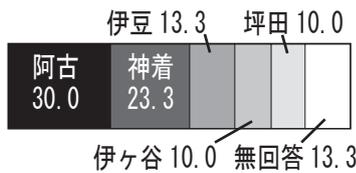
金銭的問題としては、「帰島する度、修繕を必要とする部分があり、今迄かかった補修費用もあり、負担となっている」、「三宅島への渡航費用の補助があったらと常々思っている」。

復興の提案としては、「村おこしを計画する」などがあげられます。

未帰島者アンケート

配布105世帯 回収率35.0% 単位%

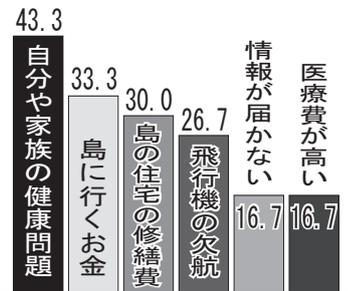
Q. 避難前の居住地は？



Q. 1年前に比べて生計は？

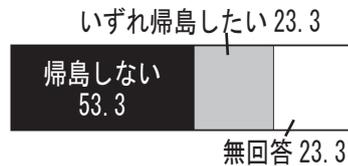


Q. 困っていることは？

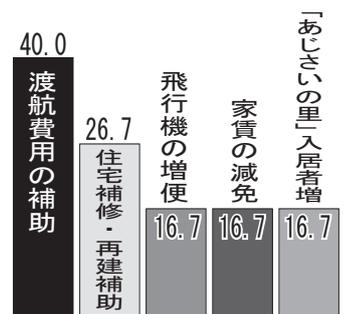


※複数回答 上位のものを掲載

Q. 帰島の意志は？



Q. 行政に望むことは？



※複数回答 上位のものを掲載

ふるさとネットアンケート 干川先生の協力で集計

復興に取り残された島民

干川先生プロフィール



2000年の三宅島噴火から、現在に至るまで、11年間にわたって、多摩ニュータウン地区での避難住民への情報紙「アカッコ」の作成・配布活動、三宅島の火山灰を活用した「灰干しプロジェクト」による地域活性化などの支援活動を続けてきた。非帰島住民についてのアンケート調査への協力は、今回で3回目となる。

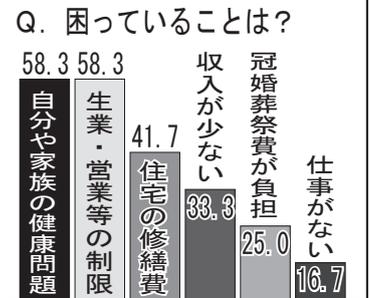
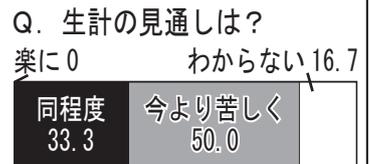
高濃度地区島民の現状
「村の対応不十分」の声が
在島者8割以上が60代

在島高濃度地区住民の調査に関しては、回答者の8割強が、60代以上の男性です。5割が、避難前の職業は、自営業（民宿・商店等）、現在は、3分の1が、無職です。現在、坪田高濃度地区に

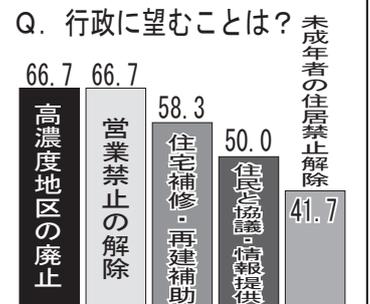
居住している回答者は、5割を占めます。1年前に比べて、回答者の3分の1が、「生計が苦しくなった」、9割が、「預貯金が減った」、半数が、「今後、生計が苦しくなりそうだ」と答えています。現在困っていることと

在島高濃度地区住民アンケート

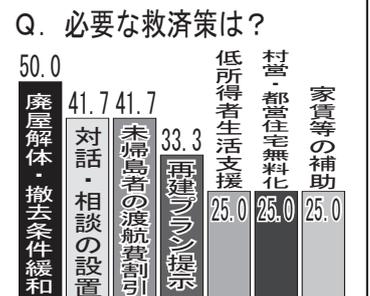
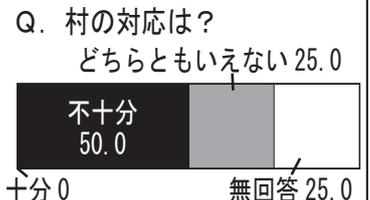
配布50世帯 回収率26.0% 単位%



※複数回答 上位のものを掲載



※複数回答 上位のものを掲載



※複数回答 上位のものを掲載

を聞いた質問には、回答者の6割強が、「健康問題」と「高濃度地区の生業・営業等の制限」、4割強が、「住宅の修繕費がかかる」、回答者の3分の1が、「仕事が不安定で収入が少ない」ことをあげています。回答者の3分の2が、「高濃度地区の廃止および高濃度地区での営業禁止の解除」、また半数が、「高濃度地区再生策を住民と協議し支援策等についてのみ細かい情報を提供」、4割強が、「高濃度地区での未成年者居住禁止の解除」を求めています。

在京者 渡航費など負担に

在京高濃度地区住民の調査に関しては、回答者8名のうち5名が、60代以上で女性です。帰島する意思が「ある」は、1名のみで、3名が「ない」と答えています。回答者の半数が、現在無職。1年前に比べて生計が、「とても苦しくなった」、今後の生計について、「今とほぼ同程度の暮らしができそう」と「今より苦しくなりそう」が2名ずつです。現在、困っていること

として、「家賃、光熱費など二重の負担がかかる」が2名、行政に望むこととして、5名が「三宅島-羽田間の飛行機の増便」を求めています。高濃度地区に対する三宅島の対応が「不十分である」が3名、「わからない」が2名、「十分である」と「どちらとも言えない」が1名ずつです。高濃度地区住民に対する救済策を聞いた質問に関しては、回答者の半数が、「未帰島者の渡航費の割引」を、それぞれ3名が、「家賃等の補助」、「低所得者への生活支援策」を、さらに、それぞれ2名が、「村営・都営住宅の無料化」、「地域再生プランの提示」をあげています。

投稿コーナー

透析機問題 村長の決断を

患者家族・池田金好(76・伊豆)

私たち「人工透析を切望する有志の会」は、12月5日午前10時より平野村長に人工透析設備の早期導入に関する要望書を提出しました。代表して池田金好会長、佐藤就之事務局長、浅沼徳広村会議員、光安千久子運営委員が、次期第五次三宅村総合計画に盛り込むなどして早期実現を行うことなど申し入れました。

村長答弁は、総合的に検討したいと述べるに止まっています。しかし、5人に1人は発病の可能性があるとして厚労省も発表している現状を認識し、早期に村長は決断してもらいたいと強く要望しました。ご理解とご協力をお願いします。

【ご寄付者名】

吉田信行様、坂本健様、M様、大石真様、永井タケ子様、佐藤宗ノ子様、島市売上げ②(10月1日～11月30日) ありがとうございます。

坪田復帰、地域に不公平感・格差などの意見が寄せられています。他に、空路、役場の

1面、佐藤会長の挨拶にあるように、節目の時期にあると思います。島民、在京の方々の望む情報、掲載や訪問活動などを通し、三宅島の復興に協力したいと思っております。今年もよろしくお願います。(DTPA一同)

アンケートに自由記入欄より 三池地区の復興 早急に

未帰島者から望郷の想い...



アンケートの自由記入欄には、帰りたくても帰れなかった人々と家族の望郷の想いが...。「毎夜のように、島の夢を見ていたようです。旅立ちには笑顔でした。やっと島へ帰ることができると思うたのでしよう」とご家族からの計報も届く。島がやっとながかりました。三池地区の方々は、どんなに待ったことか! 11年です。今年のお祭りは、三池でも、もみ合いました。本当に嬉しかったです。さて、三池地区はまだまだ復旧はしていません。店もなく、ましてや地盤沈下もあって、海が目の前まで来て(迫って)いる

11年間の立ち入り制限は約9割の家屋・事業所を崩壊させた

都営住宅で芽生えた交流 副会長の住む団地に福島被災者が



酒井副会長(右)と木幡さんご夫妻

ふるさとネットの酒井一豊副会長が住む都営住宅で、東日本大震災にともなう原発事故の影響で、福島県飯館村から避難した木幡二男さんが生活している。木幡さん夫婦は、政府の避難指示が出る前に自主避難をして、東京都が斡旋した宿泊施設などを経て、現在の都営住宅に移り住んだ。

酒井副会長との出会いは、木幡さんが自治会費を届けたのがきっかけ。共に東北出身であることや木幡さんの兄が三宅島にいたことで意気投合。それからときどき酒を酌み交わす仲になった。木幡さんは「帰りたい気持ちは強いですが、見通しが立たない中、共通の経験をした人と知り合い、友人も増えたのは心強い」と語った。

編集後記

三宅島噴火から12年が経ち、新報も37号を迎えました。ここまで発行を続けられたのも、ご寄付や取材協力など皆様のおかげです。